

平成 21 年 4 月 9 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18530428

研究課題名 (和文) ウガンダ・アルバート湖岸地域の漁村における人的ネットワークとコミュニケーション

研究課題名 (英文) A Case Study of Citizenship and Agency in Migration: Social Alternation of Landing Site in Lake Albert

研究代表者

田原 範子 (TAHARA NORIKO)

四天王寺大学・人文社会学部・准教授

研究者番号：70310711

研究分野：社会学・アフリカ地域研究

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：アルバート湖、移動民、シティズンシップ、コミュニケーション、親族ネットワーク、漁労活動

1. 研究計画の概要

本研究は、人、もの、情報の移動が日常化し、価値の多様化と同時に一元化が進行する現代社会において、マクロな社会変動に対応する人びとの生活世界を社会的に調査研究することを企画したものである。

具体的には東アフリカのウガンダ共和国のアルバート湖岸地域における社会変容と日常生活を営むうえでのローカルな生の技法をフィールドワークをとおして読み解くことを目的としている。

アルバート湖岸地域で漁労活動に従事する人びとの多くは、西ナイル地域およびコンゴ共和国から移動してきたアルル人である。そうした移動民の社会活動の基盤には親族および民族集団のネットワークがある。その実態をコミュニケーションの観点から明らかにする。

2. 研究の進捗状況

(1) ネットワークについての資料収集および分析

アルバート湖岸地域における社会組織の概要の把握を試みるための文献資料について 1960 年代のものはすでに収集し分析中である。新しい資料は、現在、収集継続中である。また親族間および同民族間のネットワークを基盤とした具体的な活動についてはフィールドワークをとおして情報収集を行った。人々は親族や同民族間で携帯電話とラジオを通して情報を交換し、湖岸一出身地域一都市部を常態的に移動していることが明らかとなった。

(2) アルバート湖岸地域におけるメディア環境にかかわる資料収集および分析

ウガンダ国内の人びとのメディア利用の実態について資料収集を行った。村落地域では、携帯電話の公衆電話化が過去 3 年の間に進行し、遠隔地の親族とのコミュニケーションのために頻繁に利用されるようになった。

アルバート湖岸地域においては都市部とは異なる携帯電話会社が進出しているため、都市部と湖岸地域を移動する人々は携帯電話を 2 台所有する傾向にある。こうした実態については、マケレレ大学情報学部における先行研究を検索中である。

従来、親族情報を伝達するのに使われてきたラジオは携帯電話にその機能を譲り、より一般化された情報を流す傾向がみられるようになった。ネビ県に情報発信をしているラジオ局で聞き取り調査を行い、情報発信と伝達の実態を明らかにした。

(3) 生活史・出身コミュニティの調査

フィールドワークをアルバート湖岸のホイマ県、ブリッサ県、ネビ県の漁村コミュニティで継続的に実施し、そこにおける異民族が混住することに関する問題点を明らかにした。各コミュニティにおいて問題解決手段は多様であり、協同生活の知恵を生み出す村もあれば、異民族の排除が巧妙に行われている村もある。また、移動民の出身母村を現地スタッフとともに訪問し、その生活状況について調査を行った。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

3年間の継続的なフィールドワークにより、アルバート湖移動民たちの生活実態、出身コミュニティにおける親族ネットワークとコミュニケーションの方法について、明らかになってきた。

研究当初予測しえなかった点として、携帯電話の急速な普及、湖岸管理単位という新たな政治制度の導入、隣国コンゴ民主共和国の政治動向、湖岸地域における石油の発見と欧米企業による採掘開始がある。これらの影響により、湖岸地域のコミュニティの変容は余儀なくされ、人びとの日常生活も変化している。したがって先行研究は数少なく、新聞などのメディアに現れる情報を収集して実態を把握することが必須となり、課題が増加している。

4. 今後の研究の推進方策

大学のサバティカル制度を利用して、4月より5ヶ月間のウガンダ滞在が可能となったため、湖岸のフィールドワークと新聞資料の収集を行うことにより、現地でしか得られない情報の収集を試みる。そして10月より過去3年間の資料と新たに得られた資料の分析・考察を進め、論文等執筆を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

田原範子2008「ウガンダ・アルバート湖畔の漁撈と生活——BMUの導入と石油発見の影響について」『四天王寺大学紀要』第46号 269-302頁。査読有

[学会発表] (計 1 件)

田原範子「共生をめぐる秩序構造研究にむけて——ウガンダ・アルバート湖岸の漁村の事例から」日本アフリカ学会関西支部例会・第146回アフリカ地域研究会：京都大学2007年7月14日。

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他] (計 3 件)

(1)Tahara Noriko, Round Table
"Alternation of the Life-World: A Case of Fishing Community on Lake Albert", Jeju Development Institute, 4th Sep. 2006.

(2)Tahara Noriko, Symposium
"Globalization and Local Knowledge" as a commentator, Beijing Normal University, 14th Jul. 2007.

(3) 新聞掲載「アルバート湖における漁労と生活の変容」『済民日報』2006年5月5日(取材記事)